

って、生徒の現実を自己の現実として受けとめることである。生徒を待つのではなく、時間の許すかぎり生徒とともにあり、生徒の生活について認識を深め、共通の話題を見出して、語り合うことである。

教師が自己を語るとき、理解できるのは、教師と同じ水準の能力をもった少数の生徒たちであり、大部分の生徒は、教師の懐古談を、教師の自己満足の表現とみているかもしれない。

自己表現のできない生徒との対話は、長時間にわたる苦しい忍耐の後に、ようやく始まるのである。

#### (4) む す び

以上、高等学校(全日制普通科)の教育課程について、本県の現状から問題点をさぐり、改善の視点を考察した。各教科・科目の具体的な内容は、それぞれの教科の研究にまつところが多い。

人間社会の進歩発展の原動力は、移動することにあり、移動が変化をひき起すといわれているが、人も物もめったに移動しない小さな地域社会で、せめて学校教育ぐらいは変化に対して寛容でありたいと念願する しだいである。

### 高校教育改善の視点

#### その1 内容の編成

##### 高校進学率の上昇

##### 生徒の能力・適正の多様化

##### 高校教育内容の検討

- エリートの教育機関でなくなる。
- 国民教育、生がい教育として考えられてくる。
- 小・中学校教育の経験の基礎に立つ教育
- 大学進学を前提として高校教育を考えない。

#### I 教科・科目の構成

ゆとりとバランス  
のある教科・科目  
の編成

##### 生活に必要な学科に 集約

国語、美術、体育、職業に関する教科の設定

##### 高度な学習の選択

社会、数学、理科、外国語は、生徒の能力に  
応じて高度化する。

##### 科目の履修の段階制

各科目に、I、II、IIIの履修に段階制をもたせる。

能力のある生徒 —— 2か年の修了 3年目は、進路に応じた教育

能力の劣る生徒 —— 時間をかけて指導 3年～4年

#### II 単位制・選択制

学年制の弾力化を  
はかる。

##### 個人差の考慮

単位修得に必要な時間の確保

##### 単位修得時間

単位修得の基準時間の修正  
体験や、実習の時間の設定

##### 進級・卒業に必要な 単位

テスト、不合格のときは再履修

##### 学年制の弾力性

類型のコース設定  
選択科目の時間にゆとりをもつ